

会津シネマウィーク2018スケジュール

12月7日(金) 9:30開場

10:00~12:09 「名もなく貧しく美しく」
13:00~14:49 「この広い空のどこかに」

12月8日(土) ※1作品ごと入替え

9:30開場
10:00~11:02 「それいけ!アンパンマン かがやけ!クルンといのちの星」
12:30開場
13:00~14:45 「嘘八百」

12月9日(日) ※1作品ごと入替え

9:30開場
10:00~11:40 「僕のワンダフル・ライフ」
12:30開場
13:00~14:56 「ペンタゴン・ペーパーズ」

■チケット：自由席 一般 500円 3歳以上大学生以下 300円

※7日(1日券) 8日・9日(1作品ごと入れ替え)

※当日各100円増し

※それぞれ400枚限定。売切の場合、当日券の販売はありません。

■プレイガイド 會津風雅堂/アピタ会津若松店/神明通りプレイガイド/
アピオスペース/栄町オサダ/あしすと/
会津若松市内レオクラブTSUTAYA各店

■ご注意ください・やむをえない事情により、上映作品等が変更になる場合
がございます。予めご了承ください。
・客席内での飲食はできません。
・会場には十分な駐車スペースがありませんので、お車
でのご来場はご遠慮ください。

会津 2018 シネマウィーク

平成30年12月7日(金)~9日(日)

©平成30年度優秀映画鑑賞推進事業

必見の大作・話題作が満載



©2018 アニプレックス・TMS・NTV ©2018 アニプレックス・TMS・NTV ©2018 Universal Studios and Storyline Distribution Co., LLC. All Rights Reserved



©2018 「嘘八百」製作委員会 ©2011 Twentieth Century Fox Film Corporation and Storyline Distribution Co., LLC. All Rights Reserved

■会場：会津若松市文化センター

■主催：公益財団法人会津若松文化振興財団/
文化庁/東京国立近代美術館フィルムセンター

■共催：会津若松市教育委員会 ■特別協賛：木下グループ [木下グループ](#)

■主管：会津シネマウィーク2018実行委員会/優秀映画鑑賞推進事業実行委員会

■協力：株式会社 オーエムシー/株式会社 栄楽座

■お問い合わせ：会津若松市文化センター (TEL. 0242-26-6661)

平成30年度
優秀映画鑑賞推進事業

12月7日(金) [9:30 開場]

名もなく貧しく美しく

10:00~
(129分)



- ◆監督／松山善三
- ◆脚本／松山善三
- ◆製作／藤本真澄
角田健一郎
- ◆撮影／玉井正夫
- ◆出演／高峰秀子
小林桂樹
原泉
草笛光子
沼田曜一
賀原夏子

1961年

木下恵介監督の下でシナリオの修行を積み、助監督を務めた松山善三の第一回監督作品である。聾啞学校の同窓会で出会い、結ばれた道夫と秋子は、貧しいながらも身を寄せ合い、懸命に生きている。やがて夫婦には子どもが生まれ、暮らしも落ち着きかけたが、素行の悪い秋子の弟に、金の問題で繰り返す悩まされる。絶望した秋子を電車の窓ガラス越しに道夫が励ます姿は、手話によって二人の絆が語られる美しい場面であり、印象深い。本作は、松山が自らの監督デビュー作として準備してきたもので、「靴磨きの聾啞者夫婦」という設定に松竹は難色を示したが、東宝のプロデューサー藤本真澄の判断で映画化が実現した。同年の毎日映画コンクール、ブルーリボン賞の脚本賞を受賞するなど高い評価を受け、興行的にも成功した。「高峰秀子の夫」というイメージがあった松山は、本作によって一躍映画監督として確固たる地位を築いた。

この広い空のどこかに

13:00~
(109分)



- ◆監督／小林正樹
- ◆脚本／楠田芳子
- ◆製作／久保光三
- ◆撮影／森田俊保
- ◆出演／佐田啓二
久我美子
高峰秀子
石浜朗
大木実
小林トシ子
田浦正巳

1954年

どこにでもある町の居酒屋。働き者の若主人と嫁いできたばかりのその妻。一緒に暮らすのは若主人にとって亡くなった父の後妻である義理の母と、その子供である妹と弟。気がかりは戦争で足を悪くして家に引きこもりがちな妹。そんな平凡な家族でおこるささやかな誤解と、やがて来る和解。人物の感情の流れを細やかに、かつ鮮やかにとらえたホーム・ドラマの名作。木下恵介監督の門下として前々年にデビューし、その後「人間の條件」(1959~61)や「怪談」(1964)などの大作により、世界的巨匠となった小林正樹監督による第四作目である。

12月8日(土) [9:30 開場]

それいけ！アンパンマン かがやけ！クルンといのちの星

10:00~
(62分)



- ◆監督／矢野博之
- ◆原作／やなせたかし
- ◆脚本／金春智子
- ◆声の出演／
戸田恵子
中尾隆聖
杏
渡部建
児嶋一哉

2018年

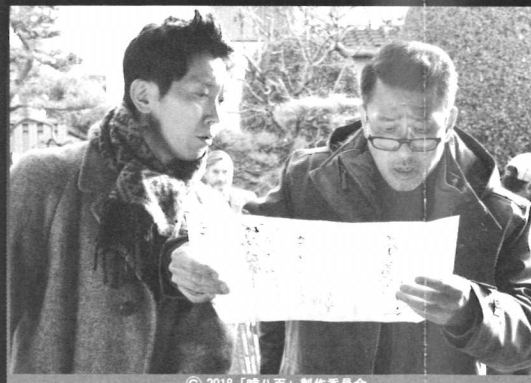
【配給：東京テアトル】

©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV ©やなせたかし/アンパンマン製作委員会2018

やなせたかし原作の国民的アニメ「それいけ！アンパンマン」の劇場版30作目。年に一回の星祭りの準備でみんなが大忙しのある日、何でも吸い込んでしまうばいきんまんのゴミ箱から、自分がどこからやってきたのかもわからない不思議な女の子クルンが飛び出してくる。そして、ある夜、黒い星が大量に降り注ぎ、草木が枯れてしまう事件が発生。いのちの星の故郷によくないことが起きているかもしれないと考えたアンパンマンやクルンたちは、いのちの星の故郷を目指して出発する。ゲストキャラクターとなるクルンの声を、女優の杏が担当。お笑いコンビ「アンジャッシュ」の渡部建と児嶋一哉が、ばいきんまんの操るメカ「だだんだん」「ゴロンゴロ」の声で出演する。

嘘八百

[12:30 開場] 13:00~
(105分)



- ◆監督／武正晴
- ◆脚本／足立紳
今井雅子
- ◆製作／間宮登良松
依田巽
- ◆出演／中井貴一
佐々木蔵之介
友近
森川葵
前野朋哉

2018年

【配給：ギャガ】

© 2018「嘘八百」製作委員会

中井貴一と佐々木蔵之介がダブル主演を務め、「幻の利休の茶器」をめぐる繰り広げられる騙しあいを軽妙に描いたコメディードラマ。千利休を生んだ茶の湯の聖地、大阪・堺。大物狙いだが空振り続きの古物商・小池則夫は、腕は良いのに落ちぶれてしまった陶芸家・野田佐輔と出会う。大御所鑑定士に一杯食わされた二人は、仕返しのため「幻の利休の茶器」を仕立て上げて一攫千金を狙う。そんな彼らの行動が、家族や仲間、文化庁まで巻き込む大騒動に発展し……。共演にお笑い芸人の友近、「濁き。」の森川葵ほか。「百円の恋」の監督・武正晴と脚本・足立紳が再タッグを組み、NHK連続テレビ小説などを手がける脚本家・今井雅子も参加。

12月9日(日) [9:30 開場]

僕のワンダフル・ライフ

10:00~
(100分)



- ◆監督／ラッセ・ハルstrom
 - ◆製作／ギャビン・ポローン
 - ◆製作総指揮／
アラン・C・ブロンクイスト
マーク・スーリアン
ローラ・ファイファー
 - ◆出演／デニス・クエイド
ペギー・リプトン
ブライス・ガイザー
K・J・アパ
- 2017年 アメリカ
【配給：東宝東和】

© 2016 Universal Studios and Storyteller Distribution Co., LLC. All Rights Reserved.

ゴールデン・レトリバーの子犬ベイリーは、自分の命を救ってくれた少年イーサンと固い絆で結ばれていく。やがて寿命を終えたベイリーは、愛するイーサンにまた会いたい一心で生まれ変わりを繰り返すようになるが、なかなかイーサンに遭遇できない。3度目でようやくイーサンに出会えたベイリーは、自身に与えられたある使命に気づく。主人公の犬ベイリーの声を担当するのは、ディズニーアニメ「アナと雪の女王」でオラフの声を演じたジョシュ・ギャッド。若き日のイーサン役には新人俳優K・J・アパを抜擢し、成長したイーサンを「エデンより彼方に」のデニス・クエイド、イーサンの初恋相手ハンナを「トゥモローランド」のブリット・ロバートソン、大人になったハンナを「ツイン・ピークス」シリーズのペギー・リプトンがそれぞれ演じる。

ペンタゴン・ペーパーズ

[12:30 開場] 13:00~
(116分)



- ◆監督／スティーブンス・スピルバーグ
 - ◆製作／スティーブンス・スピルバーグ
エイミー・パスカル
クリスティ・マスコウ・クリーガー
 - ◆製作総指揮／
ティム・ホワイト
 - ◆出演／メリル・ストリープ
トム・ハンクス
サラ・ポールソン
ボブ・オデンカーク
- 2017年 アメリカ
【配給：東宝東和】

© 2017 Twentieth Century Fox Film Corporation and Storyteller Distribution Co. LLC. All Rights Reserved.

ベトナム戦争が泥沼化し、アメリカ国民の間に疑問や反戦の気運が高まっていた1971年、政府がひた隠す真実を明らかにすべく奔走した人物たちの姿を描いた。ニクソン大統領政権下の1971年、ベトナム戦争を分析・記録した国防省の最高機密文書「ペンタゴン・ペーパーズ」の存在をニューヨーク・タイムズがスクープする。ライバル紙でもあるワシントン・ポスト紙は、亡き夫に代わり発行人・社主に就任していた女性キャサリン・グラハムのもと、編集主幹のベン・ブラッドリーらが文書の入手に奔走。なんと文書を手に入れることに成功するが、ニクソン政権は記事を書いたニューヨーク・タイムズの差し止めを要求。新たに記事を掲載すれば、ワシントン・ポストも同じ目にあうことが危惧された。記事の掲載を巡り会社の経営陣とブラッドリーら記者たちの意見は対立し、経営か報道の自由かの難しい判断に迫られる。